

Cefatrizine による小児膿皮症の治験

高橋 久・金子 修・牧野典子・三輪欣二

帝京大学皮膚科

セファロsporin系薬剤には、皮膚感染症の主役であるブ菌に耐性菌がほとんどない点で、感受性の検討を余り必要とせず投与して、効果の發揮を期待しうる薬剤であって、とくに重篤化する夏季の膿痂疹などに使用して、余り失敗がない。今日その系統に属する Cefatrizine シロップ (S-640 P) を小児皮膚化膿性疾患症例に使用する機会を得たので簡単に報告する。

投与症例と投与方法

総計 35 例に本剤を投与した。内訳は膿痂疹 22 例、化膿性汗腺炎 4 例、癬 8 例、ブ菌熱傷症候群 1 例である。

投与期間は 3 日から 9 日で、昭和 50 年夏季の外来患者に対して投与を行なった。

投与量はとくに体重によって規定せず、その結果、投与量と臨床効果の間の関連をのちに述べるように観察することができた。

効果の判定としては、もし適当量、適当期間投与を行なえば、本剤は確実に奏効するであろうことを見越した上で、3 日以内に全治すれば著効、3 日から 7 日までの間なら有効、8 日以上を要するものをやや有効と定めたが、投与によっても増悪する例や、治癒傾向をみとめない例があり、それを無効とした。

治療成績

膿痂疹 22 例中、著効 2 例、有効 15 例、やや有効 5 例であった。また乳幼児頭部の化膿性汗腺炎 (あせものより) 4 例では 2 例有効、2 例やや有効であった。癬は著効 1、有効 4、やや有効 1、無効 2 例であった。ブ菌性熱傷症候群には有効であった (Table 1)。

以上を総合すると、全 35 例中著効 3 例、有効 22 例、やや有効 8 例、無効 2 例であった。

副作用は 1 例に下痢 (No. 29) を認めただけであった。

考 察

膿痂疹は、自然治癒の多い皮膚の小化膿性疾患の中では、自然治癒傾向の少ない疾患である。今回 22 例の治験を得たが、患者年齢と投与量との関連をその治療効果の点から観察すると、年齢が高い割に投与量の少なかったものとして第 5 例、第 15 例、第 20 例があるが、いちおう 5、6 歳の幼児に 1 日 150 mg 投与では効果を収めうるようである。一般に膿痂疹はたとえば CER の投与などで

は 3 日で全治する患者が多いので、このような例を著効例としているが、さすがに第 20 例のように 6 歳で 1 日量 100 mg では効果は不十分といわざるを得ない。いっぽう、年齢に対して十分な大量を投与した第 1 例、第 2 例、第 7 例、第 13 例、第 21 例などは短期間に治効を發揮して、著効例もあるようである。一般に膿痂疹では治療効果が拳がると、まず、びらん面の乾燥がみられ、ついで発赤の消退を来し、やがて、落屑を伴って全治に至るので、その経過をチェックすれば、薬効がほぼ推定できる。

なお、一般に膿痂疹の起炎菌たる *Impetigococcus* (黄色ブ菌 2 群 71 型の通称) は表在性のびらんを来すが、癬や癬には發展しないことが多いので、その点で、第 8 例の起炎菌はやや種類を異にして、したがって、他症例とその薬効の発現経過を異にするようである。

いっぽう、これら膿痂疹に対して、癬はおそらく菌の種類も異なると考えられ、投与量も多いにもかかわらず、その効果は必ずしも満足すべきものではない。また癬の起炎菌の黄ブ菌ではその常在部位が鼻孔粘膜にあるとされ、その部位の菌を根絶させなければ、往々にして再発し、また癬腫症のような多発型となることが予想されるが、第 28 例、第 30 例、第 33 例はそのことを物語っている。すなわち、投与抗生物質は、病巣患部の菌には作用して、治癒させたが、患者鼻腔内の菌にまでは、作用が充分に行き届かなかったとも考えられる。

乳幼児の頭部に生ずる化膿性汗腺炎は排膿の程度により膿瘍治療の程度が限定されるので、その治療効果と薬剤の効果は必ずしも併行しないが、いちおう、有効およびやや効力を發揮していると見てよい。

第 35 例のブ菌性熱傷症候群¹⁾は、表皮剥離毒産生ブ菌が、咽頭や鼻腔や皮膚などに増殖し、その毒素による 1 種の中毒性表皮剥離を伴うものであるが、充分な量を当初から投与する必要があるが、今回の治療もいちおう奏効している。

ま と め

35 例の乳児、幼児の皮膚化膿性疾患を、Cefatrizine syrup により治療して、著効 3 例、有効 22 例、やや有効 8 例、無効 2 例の結果を得た。癬に対しては膿痂疹に対するよりもより大量の投与を必要とする印象をうけた。副作用としては 1 例に下痢をみた。

Table 1 The results of clinical trial

No.	Patient	Diseases	Local.	Dose days	Sensitivity									Results	Comment	
					CP	TC	CER	CEX	KM	EM	LCM	MPIPC				
1	I. M. 3, F.	Impetigo	Thigh Disseminated	400×6											Good	Cured.
2	S. N. 4, M.	Impetigo	Diss.	500×5											Good	Days 4 cured.
3	I. H. 3, F.	Impetigo	Diss.	300×7											Good	Cured.
4	S. M. 6, F.	Impetigo	Diss.	200×6											Good	Days 3 dried.
5	S. S. 4, F.	Impetigo	Diss.	150×6											Good	Days 3 dried.
6	S. W. 8, F.	Impetigo	Diss.	300×6											Good	Days 3 dried.
7	I. M. 3, M.	Impetigo	Diss.	400×4											Good	Cured.
8	S. T. 4, M.	Impetigo	Face, Buttock	300×8											Fair	Resulted in folliculitis.
9	K. T. 2, F.	Impetigo	Knee	300×5											Good	Cured.
10	K. M. 4, F.	Impetigo	Face	200×6											Good	Cured.
11	K. H. 2, M.	Impetigo	Diss.	200×3 350×4 300×3	#	#	#	#	#	+	#	#	#	#	Fair	Better.
12	Y. K. 4, F.	Impetigo	Diss.	420×6	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	Fair	Days 9 cured.
13	K. H. 5, M.	Impetigo	Diss.	500×3											Excell.	Cured.
14	O. H. 1, F.	Impetigo	Diss.	240×6											Good	Days 5 cured.
15	M. Y. 5, F.	Impetigo	Diss.	150×5											Good	Cured.
16	K. N. 0, M.	Impetigo	Diss.	150×7	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	Good	Days 6 cured.
17	U. K. 4, F.	Impetigo	Diss.	200×5	#	#	#	#	#	-	#	#	#	#	Fair	Better.
18	Y. K. 7, M.	Impetigo	Diss.	300×5											Good	Days 3 dried.

No.	Patient	Diseases	Local.	Dose days	Sensitivity								Results	Comment	
					CP	TC	CER	CEX	KM	EM	LCM	MPIP			
19	H. M. 1, F.	Impetigo	Diss.	180×3										Good	Dried with redness.
20	K. H. 6, M.	Impetigo	Diss.	100×9										Fair	Dried with redness. Recurrence.
21	T. H. 0, M.	Impetigo	Diss.	200×3										Excell.	Cured.
22	H. A. 4, M.	Impetigo	Diss.	300×3										Good	Dried with redness.
23	S. M. 1, M.	Impetigo	Head	180×6										Good	Almost cured.
24	K. Y. 1, F.	Impetigo	Head	100×6										Fair	Better, not cured.
25	S. K. 1, M.	Impetigo	Head	300×6	##	##	##	##	##	##	##	##	##	Fair	Fistule remained.
26	M. S. 3, M.	Impetigo	Head	300×4										Good	Cured.
27	M. Y. 4, F.	Furuncle	Head	300×4										Good	Cured after pus discharge.
28	I. K. 2, M.	Furuncle	Chest, Abdom.	300×3										Excell.	Cured. Recurrence also cured in 3 days.
29	N. M. 1, M.	Furuncle	Trunk	300×3										No effect	Diarrhea, aggravated,
30	N. M. 1, F.	Furuncle	Abdom.	300×6	+	+	##	##	-	-	-	##	##	Good	Cured. Recurrence→31.
31	N. M. 1, F.	Furuncle	Head	300×4										Good	Cured.
32	N. M. 1, M.	Furuncle	Glutea.	300×8										Fair	Better.
33	K. K. 4, F.	Furuncle	Trunk	400×5										Good	Almost cured. Recurrence after 40 days.
34	I. H. 2, M.	Furuncle	Chest	150×3										No effect	Discharge continued.
35	A. T. 1, M.	<i>Staph.</i> Scalded Skin Synd.	Dissem.	300×7										Good	Cured.

なお、今回の治験に用いた Cefatrizine は萬有製薬
(株)から提供されたものである。

文 献

- 1) LYELL, A.; DICK, HEATHER & J. O. D. ALEXANDER : Outbreak of toxic epidermal necrolysis associated with *staphylococci*. Lancet 1 : 787 ~ 789, 1969

TREATMENT OF INFANTILE PYODERMA WITH CEFATRIZINE

HISASHI TAKAHASHI, OSAMU KANEKO, NORIKO FUKUDA and KINZI MIWA
Department of Dermatology, Teikyo University

Thirty-five infants were underwent with cefatrizine syrup treatment for their pyodermas. The results revealed 3 cases of excellent, 22 cases of good, 8 cases of fair and 2 cases of no effects. It was concluded that more doses are required for the treatment of furuncle and hydroadenitis than for the treatment of impetigo. The least dose for the treatment of impetigo was 150mg a day for 6 year infant. No side effect was noted other than one case of diarrhoea.